



土屋和子 著

プロフェッショナルコミュニケーション —土屋和子のデンタル NLP & LAB プロファイル—

日本大学歯学部保存学教室修復学講座
宮崎真至 (歯科医師)



A5判/118頁
定価 2,520円
(本体 2,400円 + 税 5%)
医歯薬出版刊
(2013年2月発行)

コミュニケーションは自分を理解することから始まる

言葉は、人間同士が理解しあうための意思伝達の手法の1つであり、これに表情あるいはジェスチャーを交えることが自分の意思や考えを伝えあうことにつながります。しかし、ときに自分が真意としたことが相手に伝わらなかったり、逆に意図したように理解されないことも経験するのではないのでしょうか。

特に、臨床の場において、患者さんに理解していただくと言言葉を重ねてみたものの、納得した表情を得ることができないことは少なくないかもしれません。そのようなとき、“自分の説明が不足していたので理解されなかった”と思うのが普通であり、多くの場合、さらに言葉を重ねて説明しようとするものです。しかし、人間は無意識のうちに聞いた話を省略あるいは歪曲して理解することが多く、しかも、それを一般的事項に当てはめて解釈するものであることが、本書では述べられています。であるからこそ、無意識下における思考のフィルタには、いくつかのパターンがあり、これを整理することでコミュニ

ケーションが飛躍的に向上することが詳しく記述されています。

このように、患者さんとのコミュニケーションについてもう一度考え直すべき点は多々あり、本書にはそのための道筋がわかりやすく、そしてていねいに解説されています。

本書では、コミュニケーションや問題解決、目標実現を可能にする心理学の1つである「NLP (Neuro-Linguistic-Programming: 神経言語プログラミング)」を基本としたコミュニケーションの方法について解説されています。このNLPにおけるコミュニケーションの捉え方は、個人のインスピレーションを基本とします。そのなかでは、私たちがもつインスピレーションはそれぞれの個性に基づいたものであることが認識されます。つまり、“コミュニケーションには個性に基づいたいくつかのパターンがある”という考え方がその基礎にあり、その分類は私たちがもつ感性に根づいた類型ともいえます。本当は複雑で奥深い分野の学問であるにもかかわらず、読み進むにつれて理解が深まるような構成は、はじめてNLPを学ぶ読者にとっては(無論私にとって)、とっつきやすく、直感的に“これは臨床に役立つ本だ”というイメージを与えることでしよう。

「NLP」という、歯科医学領域ではあまり馴染みがない分野を学んだことで臨床が大きくステップアップすることを著者自身が経験したからこそ、本書が編まれたという事実が実感できます。診療技術とともに、コミュニケーション能力を高めることも大切であり、本書はそれを身につけるための必携の書です。